

一人一人のこどもが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質・能力の育成に努める。

実践事項

★は、特に力点を置いて取り組んでいただきたい実践事項

1 キャリア教育の指導体制の整備・充実

- ・キャリア教育担当者や進路指導主事を中心とした校内の指導体制を整備するとともに、校内研修等による指導力向上に努める。
- ★基礎的・汎用的能力の育成に向けて、明確なゴール設定(全体計画の作成)と具体的な指導及び活動過程の明示(年間指導計画の作成)を行い、学校教育全体(教科横断、学年縦断)で取り組む。
- ・キャリア教育を教育活動全体で進めるために、P D C Aサイクルに基づき、計画を随時見直し、改善を図る。

※「基礎的・汎用的能力」を構成する4つの能力・・・「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」

2 現在及び将来の生き方を考える指導・進路指導の充実

- ・「一人一人のキャリア形成と自己実現」の内容を踏まえ、特別活動を要とした指導の充実を図る。
- ・『あおりっ子キャリア・パスポート～明日へのかけ橋～』等の活動を記録し蓄積する教材を活用し、見通しを立て振り返る活動を通して、児童生徒が自己の成長や変容を把握し、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりできるようにする。
- ・児童生徒が自らの意思と責任で、進路選択することができるよう、ガイダンスとカウンセリングの双方により発達を支援する。

※ガイダンス・・・主に集団の場面で必要な指導や援助

※カウンセリング・・・個々の児童生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導(教育相談を含む)

3 児童生徒の発達の段階に応じた勤労観・職業観の育成

- ・児童生徒のキャリア形成のために、将来の生活や社会生活と関連付けながら、見通しをもたせたり、振り返ったりする機会や進路選択について主体的な意思決定の場を設ける。
- ・中・長期的な期間で、各教科等の指導及び学習や生活のルールに関する指導を体験活動につなぐための「事前・事後の学習」を工夫する。
- ・児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を家庭、地域等と共有し、それぞれの役割を認識した上で連携・協働する。